

骨子案及び第 1 回食育推進計画策定委員会での意見における素案への反映状況一覧表

No.	原因		素案への反映状況		
	場所	意見等の内容	場所	反映した内容	
1	骨子案	豊川市の 方向性	新たな視点の追加	全体	・子ども、朝ごはんを新たな視点として素案全体に反映させました。
2			更新を図った事業の実施	P20	・「施策は、随時P D C Aサイクルによる改善を図るとともに、必要に応じ連携をすることで効果の向上を図ることとします。」追加しました。 ・「施策」から「施策例」に変更しました。
3			事業間の連携	P3	・計画の位置づけにて各課の計画を掲載しました。
				P20	・「施策は、随時P D C Aサイクルによる改善を図るとともに、必要に応じ連携をすることで効果の向上を図ることとします。」追加しました。 ・「施策」から「施策例」に変更しました。
4		市民協働の推進	P21	・ポイントにおいて「市民協働」を位置づけました。	
5		第3次豊川市 食育推進計画 見直しの方向性	ライフステージ、生活スタイルごとの食育推進の方策を追加	P19	・「生活場面」を新たに追加するとともに保健センターの取組みと整合を図りました。
6			重点事業として「子どもの健全な育成のための食育の推進」を追加	P49-50	・「子どもの生きる力」プロジェクトを重点事業と位置づけました。
7			「子どもの健全な育成のための食育の推進」の目標値を追加	P51	・「朝食を欠食する子どもの割合」を追加しました。
8	共食に関する目標値の変更検討		P51	・「家族や友人と食卓を囲む機会を増やすことに注力している人の割合」に変更しました。	
9	第1回策定委員会 での意見	<u>社会状況の変化</u> 若い世代は、共働き多く、食育を知っていても実践できない。	P1	・本文中に「ライフスタイルが多様化しており、社会状況にあった食育の展開が求められています」を記載しました。	
P35			・施策の方向にコメントを追加するとともに具体的な施策において「こだわり農産物認証及びタイアップ店認定事業」を新たな施策として追加しました。		
10		<u>世代間の交流</u> 子どもと高齢者が交流できるイベント。	P17	・図の中に「世代間交流」を追加しました。	
			P27	・施策の方向にてコメントを追加しました。	
11		<u>継続的な事業効果の創出</u> イベントなどの一過性で終わらないよう工夫が必要。	P20	・「施策は、随時P D C Aサイクルによる改善を図るとともに、必要に応じ連携をすることで効果の向上を図ることとします。」の記載を追加しました。	
12		<u>市事業の食育を意識した実施</u> アクションプランに位置付けされた事業であっても主目的が別にあると食育の要素が低下してしまうことが大いにあるのでは。	P20-21	・スローガン「食育の絆」を追加するとともに、「具体的な施策例」から「基本理念」まで矢印の表示に変更し意識強化を表現しました。	
13		<u>重点、焦点がわかる計画策定</u> 戦略をもった計画（メリハリ）、子どもを重点はよい。	P20	・具体的な施策例に【重点】の表記を追加しました。	
			P49-50	・「子どもの生きる力」プロジェクトを重点事業と位置づけ、各施策例を記載しました。	
14		<u>他団体との連携強化</u> 消費者協会など各団体で食育の取組を行っているがうまくいっていない。	P21	・ポイントにおいて「市民協働」を位置づけました。	
15		<u>民間の食育活動の支援</u> 行政主導の取組みの限界があり、行政に頼りすぎている。	P21	・ポイントにおいて「市民協働」を位置づけました。	
16		<u>豊川らしさを反映</u> いなり寿司などを意識。	P21	・ポイントにおいて「豊川らしさ」を位置づけました。	
17		<u>情報の一元化、発信強化</u> 行政の重要な役割のひとつ。	P21	・ポイントにおいて「情報発信」を位置づけました。	
			P52	・(2)食育ネットワークの構築の中でコメントを追加しました。	
			P53	・(2)行政の取組みでコメントを追加しました。	
18		<u>子どもを通じて浸透・拡散</u> 保育園での取組みなど。	P49-50	・「子どもの生きる力」プロジェクトを重点事業と位置づけ、各施策例を記載しました。	
19		<u>朝食の重要性</u> 100%に近づけたい。若い世代での摂取状況が低い。	P35	・施策の方向にてコメントを追加するとともに「朝ごはんを食べる環境整備」とし新たな施策を追加しました。	
			P51	・「朝食を欠食する子どもの割合」を追加しました。	
20	その他	S D G s	S D G sの内容を追加	P2 他	・P2で「持続可能な開発目標（SDGs）」を意識した取組みを展開していく旨の記載を追加し、施策の方向レベルで関連が深い分野のマークを付けました。